

外郭団体評価調書【公益法人用】

I. 基本情報

平成19年7月1日現在

団体名	財団法人會津八一記念館				
所在地	新潟市中央区西船見町5932				
電話番号	025-222-7612	代表者職氏名 所属・肩書	理事長 星野 元 〔新潟日報社 代表取締役社長〕		
設立年月日	昭和47年5月8日	所管課	文化政策課		
ホームページ	http://aizuyaichi.nuis.jp/	E-mail	aizu-81@athena.ocn.ne.jp		
基本財産 (資本金)	198,400 千円	その他 出資者	氏名・名称	出資等額	出資等比率
市出資等額	100,000 千円		株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
市出資等割合	50.4 %		株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
			株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
			株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
		その他	88,800 千円	44.8 %	
設立目的	會津八一の遺墨、遺品、著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文芸、芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育、学術の交流に資すること				
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種の講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する				

II. 組織等の状況

① 役職員数

(単位:人)

	平成16年度末	平成17年度末	平成18年度末	平成19年度
役員数	9	9	9	9
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	9	9	9	9
市兼任	3	3	3	3
市職員OB	0	0	0	0
他団体兼任	6	6	6	6
その他				
職員数	4	4	4	4
常勤	2	2	2	2
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	2	2	2	2
他団体からの派遣				
非常勤	2	2	2	2
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	2	2	2	2

②職員の状況及び年齢構成(役員兼任の職員を含む)

(単位:人)

		合計	市派遣・兼任	市職員OB	プロパー	他団体派遣・兼任	臨時・嘱託等
職員の状況	管理職	2				1	1
	一般職	3			2		1
	合計	5	0	0	2	1	2
年齢構成	20代以下	1			1		
	30代	1			1		
	40代	0					
	50代	0					
	60代以上	3				1	2
	合計	5	0	0	2	1	2

③給与等の概要

給与等の状況	常勤役員の平均年収 千円	常勤プロパー職員給与			
		初任給		平均年収	平均年齢
		大卒 170,200 高卒 138,400	円	3,616 千円	29.6 歳
常勤プロパー職員の給与体系	現在の給与体系		見直しの予定		
	<input type="checkbox"/>	団体独自の給与体系	<input type="checkbox"/>	有	予定時期 年 月
	<input checked="" type="checkbox"/>	市の給与体系を準用	<input checked="" type="checkbox"/>	無	
		その他 []		その他 []	

④経理の適正化の状況

専門家による監事・監査役就任			専門家による会計指導		
<input type="checkbox"/>	有	就任時期 年度から 依頼先職種 []	<input checked="" type="checkbox"/>	有	依頼時期 18 年度から 依頼先職種 [税理士]
<input checked="" type="checkbox"/>	無		<input type="checkbox"/>	無	

Ⅲ. 事業の概要

①主要事業の概要

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
會津八一記念館管理運営事業		公益	受託	會津八一の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に資することを目的に、會津八一の作品、遺品等を収集し、保管し、及び展示(業務仕様書より)			
実施状況	事業費			平成16年度 27,724 千円	平成17年度 26,879 千円	平成18年度 30,168 千円	平成19年度予算 29,220 千円
	活動指標・成果指標		単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度目標
	① 年間入館者数	人		5,014	6,583	8,338	7,500
	② 入場料収入(特別展も含む)	円		1,946,360	2,588,560	3,293,680	3,000,000

※H18年度は、没後50周年事業の要因によるもの

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
特別展自主事業		公益	自主	特別展は、毎年受託金110万円のほか、自主財源を補填し、會津八一の芸術的世界、あるいは学者としての世界を多角的に見せるため他館や個人の収蔵品なども借用し、図録も作成し、映像的立体的に見せている。			
実施状況	事業費			平成16年度 4,457 千円	平成17年度 4,635 千円	平成18年度 6,477 千円	平成19年度予算 4,600 千円
	活動指標・成果指標		単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度目標
	① 入館者数(抽出)	人		1,701	2,370	2,844	3,000

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
文芸講演会事業		公益	自主	館長はじめ會津八一の学芸的世界の研究者らによる講演、芸術家による公演で、より一層、記念館の展示の理解を助け、親しみを持ってもらい、リピーターを拡大する。18年度は没後50年事業として展開			
実施状況	事業費		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度予算	
			563 千円	287 千円	3,315 千円	600 千円	
	活動指標・成果指標		単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度目標
	① 開催回数		回	4	3	6	7
② 聴講者数		人	913	627	1,872	1,400	

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
普及活動事業		公益	自主	會津八一没後50年を記念し、全国と対象にした学芸的コンテストを実施			
実施状況	事業費		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度予算	
			千円	千円	1,330 千円	2,100 千円	
	活動指標・成果指標		単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度目標
	① 学術懸賞論文の応募者		人			5	
② 「八一の歌を映す」写真コンテスト応募者		人				500	

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
学習講座事業		公益	自主	①「會津八一の歌を読む会」(講師・若月忠信敬和学園大学教授)を毎月1回開催②「會津八一・吉野秀雄往復書簡講読会」(講師・和泉久子鶴見大学名誉教授)を毎月2回開催=参加者が自費で活動。学芸員が運営事務を担当			
実施状況	事業費		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度予算	
			0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
	活動指標・成果指標		単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度目標
	① 受講者		人	44	42	38	47
②							

事業名		区分1	区分2	事業の内容			
販売事業		公益	自主	會津八一の作品の複製、歌集、研究書籍のほかTシャツなど関連グッズの販売により、愛好者および旅行者の思い出の品にしてリピーターづくり。これに伴い記念館の自主活動の財源確保する。			
実施状況	事業費		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度予算	
			513 千円	7,021 千円	4,145 千円	2,300 千円	
	活動指標・成果指標		単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度目標
	① 年間販売額		千円	1,402	10,085	4,245	3,600
②							

②その他各種指標

指標の内容	単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度 目標・予定	中長期目標	
						目標値	年度

IV. 財務の状況【旧会計基準】

①収支計算書

(単位:千円)

		平成16年度	平成17年度	平成18年度
収入の部	基本財産運用収入	1,524	1,999	2,538
	会費収入			
	事業収入	31,699	38,931	41,260
	自主事業収入	3,975	12,052	11,092
	受託事業収入	27,724	26,879	30,168
	補助金等収入			300
	その他収入	4,188	3,197	4,108
	当期収入	37,411	44,127	48,206
	前期繰越収支差額	9,361	9,556	12,204
収入合計	46,772	53,683	60,410	
支出の部	事業費	32,932	39,103	46,372
	自主事業支出	5,208	12,224	16,205
	受託事業支出	27,724	26,879	30,167
	管理費	4,284	2,377	6,502
	その他支出			
	当期支出	37,216	41,480	52,874
	うち収益事業支出			
	うち公益事業支出	32,932	39,103	46,372
当期収支差額	195	2,647	▲ 4,668	
次期繰越収支差額	9,556	12,203	7,536	
参考	人件費	14,812	13,569	14,263
	うち役員人件費	0		

②貸借対照表

(単位:千円)

		平成16年度	平成17年度	平成18年度
資産の部	流動資産	28,420	21,350	14,052
	現金預金	21,046	16,083	8,829
	受取手形			
	未収金	40		
	有価証券			
	その他流動資産	7,334	5,267	5,223
	固定資産	221,048	220,733	220,630
	基本財産	198,400	198,400	198,465
	特定資産			21,851
	その他固定資産	22,648	22,333	314
	有形固定資産			
無形固定資産			264	
その他固定資産	22,648	22,333	50	
資産の部合計	249,468	242,083	234,682	
負債の部	流動負債	12,073	4,879	1,404
	短期借入金			
	その他流動負債	12,073	4,879	1,404
	固定負債	2,154	2,283	2,951
	長期借入金			
その他固定負債	2,154	2,283	2,951	
負債の部合計	14,227	7,162	4,355	
正味の財産	正味財産	235,241	234,920	230,327
	うち基本金	198,400	198,400	198,465
	うち基金			
	うち正味財産増減額	▲ 146	▲ 814	▲ 4,592
負債・正味財産の部合計	249,468	242,082	234,682	

③市財政支出等の状況

(単位:千円)

項目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	目的, 内容, 必要性, 増減理由等
補助金				
事業費補助金				
運営費補助金				
設備投資に係る補助金				
負担金				
交付金				
委託料	27,724	26,879	30,168	會津八一記念館管理運営に関する指定管理料
貸付金 (期中借入額)				
出資・出捐金 (追加額)				
その他				
合計	27,724	26,879	30,168	
貸付金残高				
損失補償契約に係る債務残高				
損失補償限度額				
その他財政援助の状況(税や使用料の減免, 建物の無償貸与等)				

④内部留保の状況

(単位:千円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
資産の部合計	249,468	242,083	234,682
基本財産	▲ 198,400	▲ 198,400	▲ 198,465
公益事業を実施するために有している基金	▲ 20,000	▲ 20,000	▲ 18,900
法人の運営に不可欠な固定資産	▲ 0	▲ 50	▲ 314
将来の特定の支払に充てる引当資産等	▲ 2,648	▲ 2,283	▲ 2,951
負債相当額	▲ 12,073	▲ 4,879	▲ 1,404
内部留保金額	16,347	16,471	12,648

V. 評価の結果

	評価基準数	得点(○の数)	得点率	【自己評価レーダーチャート】
目的適合性	12	12	100.0%	
経営の自律性	27	19	70.4%	
組織・管理運営の適正性	27	18	66.7%	
健全性	21	17	81.0%	
効率性	14	4	28.6%	
合計	101	70	69.3%	

【団体の評価コメント】

目的適合性	昭和50年以来、展示活動を展開し、県内外からの客の鑑賞に供してきた。東洋美術、書道、短歌など各種研究者あるいは同好の人々に材料を提供してきた。また、市内教育現場の求めに応じ、解説などで積極的に協力してきた。31年間で展示会は約80回、文芸講演会は140回余にのぼる。しかし、世代交代の中で、書道や短歌など伝統文芸に親しむ人口も減り入館者も減ってきた。そこで今日的な展示会、講演会、記念館グッズ販売等のスタイルを再構築。展示は映像、立体物等を活用し、他の伝統文化(たとえば華道)とのコラボレーションを図り、狂言など舞台ものや映像との結合で親しみやすく工夫し、入場者の増加を図っている。
経営の自律性	計画・実行・評価・改善は実態的には実行している。月1回館長を囲んだ展示や講演会の企画会議、毎週1回の職員会議で計画の進行をチェック。館運営全体については入館者アンケートを導入し、できるものはその都度改善、全体の結果をまとめ、展示ごとに検証を実施し、次回の展示内容を修正している。
組織・管理運営の適正性	少数での運営は個々が多能工の必要に迫られる。事務長は事業やグッズの企画、営業、広報、渉外等を担当。総務は経理、渉外、受付、友の会の管理、学芸員2人は年4回の展示と解説、6回程度の講演会、受付、広報などをそれぞれ担当。展示ごとの目標入館者数を設定し、講演会も200人以上の規模を前提に展開している。展示は担当学芸員が交互に担い、内容と入館者数、経費等を意識し、広報に工夫するなど経営意識をもちながら競争と協調で展開している。自己評価の手段として実施中の入館者アンケートでは回答者のうち当選者にゆかりの企業の商品を無償送付してもらい、八一の普及とリピーター確保を図っている。
健全性	借入金はなく、現金預金はペーオフ対策を兼ねて安全な県債に切り替え、配当金130万円を確保した。没後50年の多彩な事業の効果は入館者数が2年連続20%以上の伸びとして反映している。税理事務所のアドバイスを受けながら、毎月、予算の執行率をにらみながら、経費の適正な執行に心がけている。
効率性	新潟日報が展覧会、講演会等の広告を年間50回(1325万円相当＝18年度)無料掲載してくれ、そのうえ、新潟放送も報道協力がああり、広報面は恵まれている。友の会に当たる「秋艸会」(会員約1000人)が講演や販売の諸事業に支援。姉妹提携している早稲田大学會津八一記念博物館と共同企画、作品・資料の貸借、情報交換も実行。奈良の寺院群との交流も長年蓄積されている。入館者アンケート回答者のうち当選者には協力企業が自社製品を無償で年間120人に宅配されている。小さな予算で大規模な事業が展開できるのは、これらのネットワークが大きな経営資源となっており、効率的経営となっている。
総括的な所見	新潟独特の施設は北方文化博物館と會津八一記念館ぐらい。当館入館者の25%が県外客である現状を考えると、文化的観光拠点として施設面などの充実が迫られている。地元の歴史や文化的伝統を理解し、新潟市を県外や海外に出かける子弟が自らのアイデンティティーとして故郷新潟をプレゼンテーションできる人材育成に寄与しなければならない。入館者数年間1万人台を定着させるには今後数年の先行投資が必要であろう。地味な分野の文芸館として、没後50年事業の18年度は先行投資的観点から物販で得た資金を元に多彩な事業を展開した。現行の指定管理者制度は入館者の増加と受託金額を連動させる評価制度がないが、これが整備されれば職員のインセンティブとなろう。

【所管課による評価】	目的適合性	名誉市民である會津八一に関する資料を調査研究し、その業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の興隆に資するといった設立目的は今日でも意義がある。
	経営の自律性	現在、外郭団体経営改善計画や中長期経営計画により、中長期的な視点に立った取り組みを行っている、今後中長期計画の内容を充実させるべく、所管課としても協力していく。
	組織・管理運営の適正性	市職員の派遣やOBの登用などはないが、規程など市に準拠することも多く、事務処理にあたっては、市のサポートが不可欠となっている。今後は、職員の能力育成の環境を図るよう、求めていく。また財団の自助努力を発揮できる仕組みについて財団側と協議していく。
	健全性	財務の状況については良好であるが、市への財政的依存度が高く市からの委託料収入が主な収入源となっている。ただ自主事業については、自主財源で運営しており、全事業費のうち、約4割を占める。引き続き自主財源の確保と自主事業の充実を望むほか、委託料については、市として財政的支援が膨らまないようにするため、利用料金制の導入など検討していく。
	効率性	18年度は、會津八一没後50年という節目の年であり、積極的な事業展開を行ったことにより、経費や経常赤字に関して言えば対17年度比で増大し、各指標で評価が低かった。公益法人であるから、必ずしも経常利益をあげるのみが目標ではないと考えるが、なお収入に見合った事業展開を行うよう求めていく。
	総括的な所見	まずは、入館者の増加に向けて、継続して取り組んでいく必要がある。 役職員で、経営方針を定期的に見直し、今後の目標を明確にしたうえで中長期計画を充実させ、効率的な運営を図ることを求めていく。公益法人改革3法への対応については、情報収集に努め、市として関与すべき部分を適正に見極めたうえで、指導協力する。

【今後の取り組み】	①	施設の老朽化も進んできていることから、適切な維持補修を行っていく。
	②	財団の設立目的、経営方針、経営資源に照らし、今後展開する事業の方向性を市と財団が協議して、定めていく。
	③	財政面においては、財団の自発性や創意工夫が発揮できる仕組みについて、市側も含め検討を行う。
	④	組織の年齢構成上、事務の継承が課題である。当財団の組織構成については、見直していく必要がある。

【総合評価】	概ね良好	✓	改善・見直しが必要	抜本的な対応が必要
	総括的な所見			
	<p>會津八一を評価する企業や団体による支援、ボランティア組織等と連携し、積極的に事業を実施していることは注目に値する。</p> <p>しかし、管理施設の老朽化と狭隘化、八一及びその作品を評価する世代の高齢化等により、今後は入館者数の減少が予想されるほか、著作権の消滅や支援企業からの寄附金減少などの現状があることから、急激な収入の増額を期待することは困難な状況となっている。</p>			
今後の取り組みに対する評価、改善指示事項				
<p>団体として検討している小・中・高等学校を対象とした事業のPRや會津八一の業績の周知などの実施に着手し、また相乗効果を狙って他の歴史・文化関連施設と連携して事業を実施することにより、入館者数を確保して會津八一の業績等の普及啓発に努めることが必要である。</p> <p>そのうえで新たな自主財源の確保策を打ち出すなどにより、長期的に収入の確保に取り組んでいく必要がある。</p>				

VI. 総合評価を受けての団体としての決意

平成19年11月 理事長 星野 元

東洋美術史、墨蹟、短歌、俳句などの学芸的業績を複合的に体現した會津八一の背景には近代新潟の伝統的文化風土があった。この文化風土の再現こそ、当記念館の社会的任務と考える。まず若い世代対策として、来年度は教員への働きかけを強め小、中、高校への出前授業の実現を図る。県内の他の文人館と連携し、情報交換や企画を実現し、関心を高めるチャンネルを多様化したい。また現在実施している入館者アンケート回答者にきめ細かく情報提供してリピーターを増加させる。また活発な活動には財源的裏付けが必須。財源確保のため特別展の図録および入場券に広告掲載する。企業のメセナが低調な時代に対応し、寄付金に見合った入場券のまとめ売りを実現し、財政基盤の強化を図りたい。